

こだまの
日常活動紹介
 渥美 友香理



Aさん(横地分類A1)は、人の動きや顔を細かなところまでよくみています。職員の体の動きや表情の面白さ、特に目の中の黒目の細かな動きの変化を真剣に見ています。本の中のトンネルを表現した小さな穴や、小さな扉を開けた中に描かれた挿絵に気付いて視線を向けていることもあります。

タブレットを使った活動では、操作すると画面上で細かい不規則な動きとともに音が出る内容のアプリを使用しています。流動的に形が変化していく水のアプリでは、画面

に触れた指先から音を伴って小さい球が水しぶきのように跳ねる動きに視線を向けました。画面の下に水が溜まり、タブレットの向きを変えると

一緒に水も動きます。波打ちながら画面の縁壁に当たった水が跳ね上がる様子をジッと見ていました。溜まった水が音とともに画面の隅から流れ出るように消えていくと、消えていく場所に視線を移して注目していました。

細かい部分の動きを集中して見るので、砂鉄を使った動きや変化を見る活動を行いました。砂鉄を透明の容器に砂時計のように上から下に落とすと、流れ落ちる様子を集中して見ていました。容器の下から磁石をあてると、砂鉄が磁石に吸い付くように立ち上がったったり、磁石の動きで上下左右に波打つように流れたりする動きを、目に力を込めてグッと集中して見ていました。砂鉄の予測できない細かな動きに興味をもって見るようになってきました。容器の中でくっついて持ち上がった砂鉄に注目している所で、職員が磁石をパッと離して砂鉄が落ちると驚いた表情をしました。

水の中で色や形が変化していく活動では、目の前に水を入れた透明な容器を持っていくと、始めは職員の顔を見て笑っていました。赤色の食紅が入ったスプーンを見せると職員の手元に視線を向けました。水に食紅を1さじ入れて混ぜずに待ちます。水面で一塊だった食紅がだんだんと筋状に垂れ下がり、煙のようにもややと溶けて形が変化することを注目しています。水の色が変わっていく変化を最後まで集中して見ていました。完全に色が混ざりきると視線が外れ、職員の顔や動きを見て笑顔になりました。水を替えて今度は緑色と赤色の食紅を2種類垂らすと、線状に伸びた2色が少しずつ混ざりながら濃い緑色に変化していくようすを、まばたきもせず視線も動かさずにじっとみていました。



ほのかの
日常活動紹介
 杉田 光宏



Aさん(横地分類A1)は、本や詩を使って語りかけをする、職員のほうを向いて聴き始めます。七五調のリズムの語りの本『めのまとあけろ』を読んだときです。それまでは遠くの方を見ているような目だったのが、本を読んでいる職員の方に顔を向けました。そして2、3ページ目の「ほつぺたのはらにあめがふる、おでこがおかにあめがふる」と繰り返すリズムの辺りから眉間に力が入り始め、目に力がこもります。よく聴こうとしているように感じられました。途中は、「たらこ、かずのこ、さかなのこ、だんごのきなこは、だいたいのこ」と、同じ七五調でも、抑揚の少ないことばのフレーズが続きますが、その間も視線をとめて聞いています。そして最後に「ふとんのうみのなみのそこ。ゆめのとれびがひかっている、ねんねんころりねんころり」と読み終え本を閉じると、視線が動き「ふう」と集中が切れるような息をつき、満足そうでした。

また、Aさんは本の挿し絵

やページがめくられる動きを見ることはありませんが、近づいてくる人の動きや、近くを通り過ぎる人の動きを目で追います。細長い風船に空気を入れると、シュツという音とともに先端が伸びるように膨らみました。Aさんはその動きに気づいたように目を大きくし、少しずつ大きくなる風船の輪郭をじっと見つめているということがありました。だんだんと色や形が現われ、大きくなる変化がいいののではないかと考え、レインボースプリングを使って活動をしました。スプリングが縮んだ状態には視線が向きませんが、段々とスプリングを広げていくと、広がった先に目が合い、伸びていく方向にゆっくり目を動かして見ていま